

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2020年6月1日 201号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

レダの若きパイオニア

滝川哲盤(たきかわのりやす)君



エビの水揚げ作業



左よりフアン・ソーサ君、シンドゥルフォ君、滝川君。

私が最近意識するようになってきていることは、アイデアは暖め続けるのではなく、思ったことはなるべく早い段階で実行してみることです。それが実は難しいことなのですが、物資や機材が整わなくとも、まずはレベルの低いことから始めてみるという姿勢が、ここでは重要になってくると感じています。(四面に続く)

思ったことはなるべく早い段階で実行してみる

約五年前、見渡すかぎりの緑の大地を眺めながら、セスナ機で降り立った時の感動と高揚感は今でも覚えています。そして今回、縁があり、再びレダに来ることができたことを嬉しく思います。私がレダに来て最初の仕事は、パクーの孵化(種苗生産)でした。その後、上山先生が日本に一時帰国されたため、現在はパクー養殖の管理を引き継いでいます。具体的には、給餌管理、水質管理、池周りの管理、ヤシの木の採取、飼料作り、漁具や配管のメンテナンス等々を担当しています。現在二人のチャマコ族の従業員と共に仕事をしています。特に古参のフアン・ソーサやクリスティーノとは多くの時間を共にしました。彼らからは自然界の動植物に関する知識、また魚の習性や生息地、ヤシの木の採り方から漁具の修繕まで、あらゆることを教えてもらいました。私のほうが彼らから学ぶことがとても多い日々です。

現場では絶えずさまざまな問題が起こります。豪雨による池の増水、池の水が土手を貫いて流れたり、モグラたたきのように新しい問題が出現してきます。パクーの養殖池に1000匹以上の大量のピラニアの稚魚が入り込んでいたことが分かったときは特に驚きました。その時は従業員総出でピラニアの駆除をしたのですが、まるで釣り大会をしているようでした。

レダで活動する上で最も苦心するのは、物資の調達が難しいことです。日本ではホームセンターに行けば、必要な物品は大抵揃いますが、物資やインフラの整わないこの地では、手元にあるものをいかに有効利用していくかが鍵になります。



エビの取り出し作業 5月4日



レダ基地スナップ

真の母の木



パクーの稚魚を取り出す作業。4月15日



青木氏(左)を見送る。5月3日



エビを観察する川久保君。4月16日



アキダバンで手の消毒。4月17日



図師氏(右)と助手のハコボ君。5月5日



4月12日
岩澤所長が釣ったスルピ2匹。



取り出したエビを計測。5月4日



竹内君(左)と江頭君。4月16日



モリンガの苗を植える豊村氏。4月10日



左：大きなカボチャ、高さ30cm。

右：公館の花壇に来たイグアナ。





花の宝庫へのいざない(1)

生きものと言えば、動物と植物。パンタナールは植物の王国でもある。皆様が当地を訪れるとき、運・不運と関係なく出遭うことができるのは、野生動物よりも、むしろ野生植物の方が圧倒的に多いはず。本紙187号で「パンタナールの逞しい樹木」の主なものを紹介したが、今回は花を少しだけ紹介しよう。植物は近づいても逃げない。見つけた植物は至近距離で観察し、撮影することができる。パンタナールは花の宝庫。歩き回れば歩き回るほど多くの花と出遭う。足を止め、見つめ、魅せられ、花と知り合いになる。こうして「出遭い」から「出会い」へと発展する。植物を好きな人は、パンタナールで至福の時を過ごせるだろう。できればチャコの植物図鑑を手掛かりに検索し、形態や生態をオンライン学習してみられてはいかがだろうか？



Portulaca fluvialis スベリヒユ科



Talinum triangulare ハゼラン科



Aspilia latissima キク科



Centrosema brasilianum マメ科



Lippia alba クマツヅラ科



Hibiscus furcellatus アオイ科



Commelina cf. nudiflora ツユクサ科



Pavonia sidifolia アオイ科



Ipomoea alba ヒルガオ科



Cissus spinosa ブドウ科



Passiflora foetida トケイソウ科



Ipomoea rubens ヒルガオ科



パクーの稚魚を取り出す作業。4月15日

特に①では、経済自立化に向けて販売体制を築くために、種苗の安定確保が必須です。今年度はあまり成績が良くありませんでしたが、来年度は最低でも10万尾以上の種苗を確保し、最終的には20万尾、30万尾は当たり前前に確保できるように、種苗生産技術の確立

滝川君主導で救出した成魚を移動。3月14日

通して、将来的には単純できつい仕事だけではなく、彼らが本場の意味で技術を身につけられるような仕事を与えることができるようにしていきたいと、強く思うようになりました。パクー養殖の今後の方針は、①種苗の安定生産化、②パクー販売に向けた生産体制の構築、③飼料の開発とコスト削減をテーマに活動します。

（一面より続く）養殖の仕事の中で、池周りの除草作業があるのですが、まるで島のように塊になった水草を除去するのは骨が折れます。何よりも暑さとの戦いになるので、なかなか腰が上がりません。しかし、常に池周りをきれいにしなくては水質の悪化につながり、毒ヘビやワニも住みつきまします。このような単純労働で厳しい仕事ですが、チャマッコの従業員と苦勞を共有することを私は大切にしています。片言のスペイン語しか喋れない私ですが、苦勞を共有することでお互いの距離感が縮み、信頼関係を築けることを実感します。このような経験を

第21回パンタナール一日研修会延期のお知らせ
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、同研修会（ワンデイセミナー）は7月11日（土）に延期します。会場（東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟4階）、プログラム、参加費（2000円）等はいずれも変更ありません。万が一の状況により再延期となる場合は、下記URLのホームページにてお知らせします。

第27回環境問題研究会セミナー延期のお知らせ
同じ理由により、6月20日（土）に延期します。講師、テーマ、会場（川崎市の大山街道ふるさと館3階）、時間（午後1時半～4時）、参加費（無料）等に変更はありません。状況により再延期となる場合は、下記URLのホームページにてお知らせします。



レダの若者たちが友保君（白帽）を見送る。1月24日

レダの若者たちが友保君（白帽）を見送る。1月24日
この連載記事は、若者個人の日常生活、心情、抱負などを紹介するものです。言うまでもなく、レダ基地運営の基本方針を必ずしも代表するものではありませんが、このレポートに含まれたメッセージを汲み取っていただければと思います。（編集：滝川哲盤（たきかわのりや））

に努めます。また、最近では岩澤所長を先頭として若き勢力がパクーや豚の販売に向けて動き始めようとしています。そのための生産体制を強化できるような、すべての関係者と協力していきたいと思っています。最後に、皆様方のご支援とご理解のおかげでこのように活動ができていくことに、心より感謝いたします。まだまだ微力で未熟者ですが、レダプロジェクトが少しでも前進できるように努めて参ります。

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook

.com/ledaproject.jp/

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介用 パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>